

【国語】 言葉を使って伝えよう・考えよう

■教材名

わたしはなあに？（カードゲーム）

手元教材



ホワイトボード 提示



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

- ・高1国語、4グループの生徒対象

【ねらい】

- ・質問する力や考察する力をカードゲームを活用することで楽しみながら培うことができる。
- ・質問と推測を繰り返す活動を通して、言葉のやりとりに親しみ、表現力と対話力を培う。

【教材の使い方】

- ・出題者はカードを引き、自分では見えないようにし、他者に質問をしていき、自分のカードが何かを推測する。

【工夫した点】

- ・身近なものをテーマにした「わたしはなあに？」では、自由に質問を考えることが難しい実態があった。そこで、質問の例を提示することで、生徒が選びながら発問でき、自発的にやりとりに参加することができた。また、答える側の生徒が一目で見て理解しやすいようにカードのイラストを大きくし、視覚的支援をすることができた。

【数学】

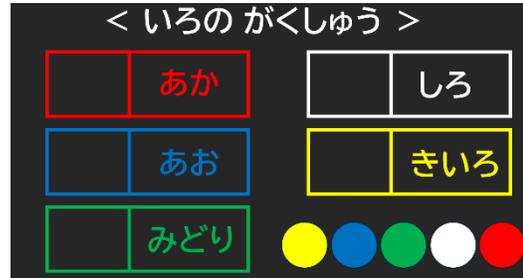
色の学習

■教材名

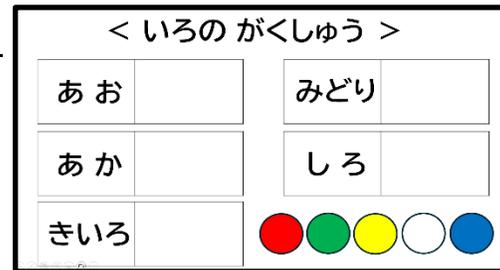
①モニタータッチ ②ポンポンタッチ

①モニタータッチ

段階1



段階2



生徒

②ポンポンタッチ



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

・高3 数学 ①グループの生徒対象

【ねらい】 色のマッチング (色と色、色名と色)

- ・同じ色に分かる。色名が分かる。
- ・色に注目して、手指などの操作ができる。

【教材の使い方】

- ①大きなモニター上で、色付きの○にタッチし、所定の場所へスライドさせる。
- ②「ポンポン→あか→タッチ！」の声掛けに合わせて、手拍子(ポ ポン)→T：赤うちわを生徒に向ける C：赤ポンポンを取る→C：赤うちわにポンポンでタッチする。

【工夫した点】

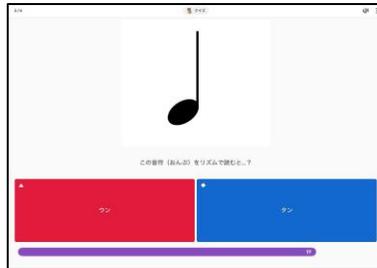
- ・課題を2段階設定し、色名の理解が難しい生徒には、色同士のマッチング課題とする。
- ・身体を動かしながら、分かりやすい掛け声を伴わせながら行うことで、興味関心をもたせ、主体性を引き出す。

【音楽】 「Kahoot!」 を活用した楽典クイズ

■教材名

楽典クイズ！キホンのキ 〈リズム編①〉

★四分音符 ⇒



★四分休符 ⇒



★ト音記号 ⇒



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

- ・高1音楽、Aグループの生徒対象

【ねらい】

- ・「Kahoot!」の使い方を身に付ける。
- ・4種類の音符と休符から、正しくリズムを読み取ることができる。

【教材の使い方】

- ・1人一台端末等を用いてKahoot!を開き、「ゲームに参加する」を選択。本教材のリンクに飛び、クイズに参加する。

- ・クイズに答えていくことで、楽しみながらリズムの読み方を覚えていくことができる。

【工夫した点】

- ・楽譜の読み方を学ぶ際、まず「リズムの読み方」を覚えておくと、その後の理解が進みやすい。この単元では、まずなぞり書きプリントを使って、各記号の書き方や名称、リズムの読み方を学ぶ。

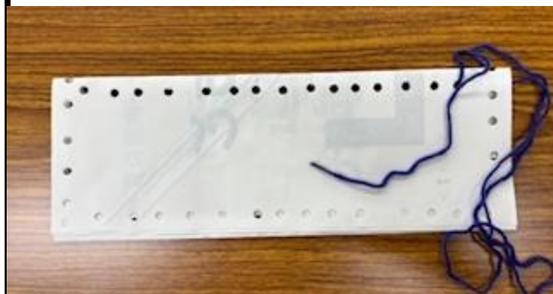
- ・十分に書く練習をしてから、このKahoot!を活用した教材を併用するようにした。そうすることで、知識の定着がしやすくなるようにしている。

- ・回答の選択肢は基本的に2つで、どの問題にも、間違いやすい選択肢を入れた。繰り返しの学習で使用しても、飽きることなく取り組める難易度に調整している。

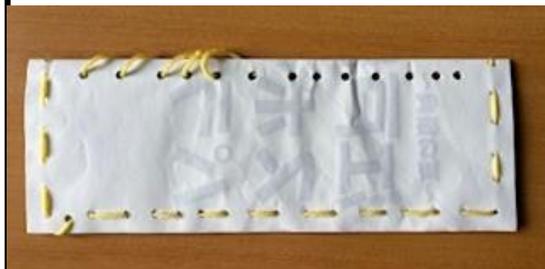
【家庭】 被服 基礎縫い

■教材名

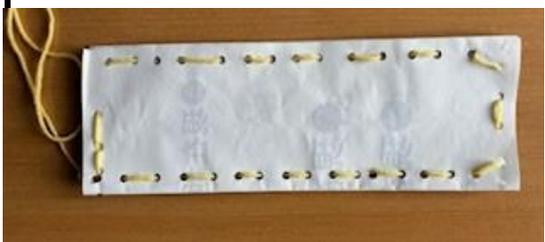
針を使わない運針練習



紙にパンチで穴をあけ、毛糸の先にセロテープを巻いて補強する。危なくない。



はじめは、裏表を意識せずに進めるのでかかってしまった。



意識すると、正しい運針ができるようになった。

■対象生徒の実態とねらい

【実態】

- ・集中時間は短く、言葉での指示が伝わりづらい。
- ・危険認知の感覚が薄い生徒が多く、針を投げてしまうなど扱いに不安がある。また空間認知の力が弱い生徒が多い。マンツーマンには限りがあるので、針を扱うには不安があった。

【ねらい】

- ・安全に運針練習を行う。
- ・表と裏を意識して正しく運針練習を行う。

【教材の使い方】

- ・毛糸の先をセロテープで固くして、紙のパンチ穴に沿って運針していく。

【工夫した点】

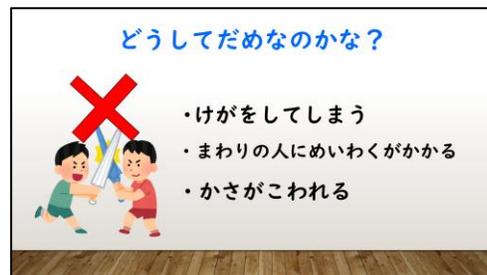
- ・針を扱う前に、安全に運針練習を行いたかった。
- ・紙の穴に毛糸を使って行えば、安全に練習が行え、運針の際の紙の裏表を意識するという方法を身に付けられる。

【職業】 社会人になるために

■教材名

こんなときどうする？ かさの使い方

【パワーポイントの教材】



【ワークシート】



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

- ・高3 職業 2グループの生徒対象

【ねらい】

- ・社会人として必要なルールやマナーについて知り、必要性について考えることができる。

【教材の使い方】

- ・プレゼンテーション教材で基本的なルールやマナーを学習し、ワークシートで確認を行う。

【工夫した点】

- ・ルールやマナーについて、○か×だけでなく、どうしてだめなのか、どうするのが良いのかを考えられるようにした。
- ・プレゼンテーション教材→ワークシート→実践的な取り組みと、段階的に学習できるようにした。
- ・傘の閉じ方や傘を差した時のすれ違い方、バスや電車での傘の持ち方など、実際の生活に必要な場面を想定して学習を行った。

【生活単元学習】 作業療法士と連携した冒頭15分の「くらしにつながる身体づくり」

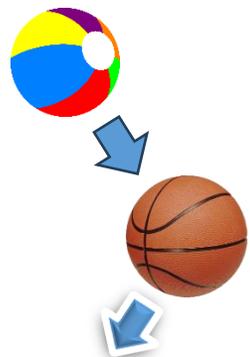
■教材名

(5～6月) 友達を意識できるようになる取組

授業者 : ビーチボールを使った受け渡しやパスを実施

作業療法士 : バasketボールなどの重みがあるものを使用するとよい

成果 : ①重みがあり持っているという実感からボールを大切に扱うようになるとともに、友達や教員にボールをやさしく渡せるようになった。



②ボールが床にバウンドする音が大きくかつ振動が身体に響くからか、ボールに注目するようになった。

③他のものを渡す場面でも手渡しするなど汎化が見られた。

■対象生徒の実態とねらい

【実態】

- ・第2学年 1類1グループの生徒
(生徒の大半は、友達等と積極的に関わりをもつことが少ない)

【ねらい】

- ・周りの友達や教員を意識できるようになる。

【教材の使い方】

- ・様々な方法でボールを友達や教員に渡す。

【工夫した点】

- ・作業療法士と連携して、取組内容を検討したこと。
- ・「手渡し」と「ワンバウンドで渡す」の取組の違いを見本だけでなく、擬音語で表現したこと。
- ・生徒と教員が円になり渡していく際、安全かつスムーズに進むよう教員の配置検討したこと。

生活単元学習

カレンダー制作

■教材名

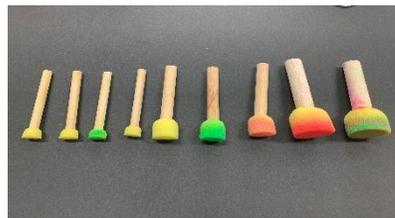
スタンプ教材による『花火アートカレンダー』



①ハサミで切る



②絵の具をつけて指で押す



③放射線状に広がりを出すように絵の具をつけて押す



④数字スタンプをテープで貼る



⑤数字スタンプを変えながら押す



⑥完成

■対象生徒の実態とねらい

【実態】

- ・高1、1グループの生徒対象

【ねらい】

- ・紙コップやスポンジ、数字スタンプなど身近な素材を使って多様な表現を楽しむ。
- ・絵の具の色や広がり、スタンプの形の違いを感じ取りながら、工夫して花火を表現する。

【教材の使い方】

- ・左記参照

【工夫した点】

- ・制作前に「江戸川区花火大会」の動画を見せてイメージを持たせた上でカレンダー制作を行った。
- ・数字スタンプが持ちにくい生徒には、プロッキーペンに数字スタンプをテープで貼り付けることで活動に参加しやすくした。
- ・個性が表れるように、花火の色やスタンプを押す場所を自由に選択させ「自分だけのオリジナルカレンダー」として仕上がるようにした。

【作業】

タオルたたみ

■教材名

タオルのたたみ方（使用アプリ：Canva）



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

- ・高1作業（清掃Ⅱ班）

【ねらい】

- ・学校にいるとき、自宅にいるとき、一人でいても、動画を見て、タオルたたみの練習をすることができる。

【教材の使い方】

- ・タオルたたみをする際、動画を再生・確認しながら、タオルをたたむ。

【工夫した点】

- ・耳からも情報を入れるため、音声説明をつけたこと。
- ・教員ではなく、生徒が実践している動画にすることで、他の生徒の興味・関心に繋がったこと。
- ・一つの動作を反復することで、見逃しを防いで、記憶の定着を図ったこと。

【理科】 天気を予報しよう

■教材名

下校時の天気を予報しよう

下校時の天気予報をしよう！

手順
① 実際に雲の観察
② 衛星雲画像で、東京に雲はかかっているか？
③ 雨雲レーダーでは、どれほどの降水があるか？

1. 雲の観察
雨を降らせる雲が空に出ているか？

乱層雲	層雲	積乱雲
		
()	()	()

2. 衛星雲画像
下校の時間に、東京に雲はかかっていることが予想されるか？
雲の量は？
多い () 少ない () ない ()

3 雨雲レーダー
自分の住んでいる地域に雨雲はかかっているか？降水量は？
雨雲の量は？
多い () 少ない () ない ()
降水量は？ () mm

4 午後の天気は？
晴れ () くもり () 雨 ()

■対象生徒の実態とねらい

【実態】

・対象はII類型生徒16名である。天気予報という題材については関心を持っている生徒は多い。グループやペアになって問題を解決することが困難な生徒が多い。

【ねらい】

・自分たちの住む地域での局地的な天気の変化を知り、天気によって対応を変更できるようにする。

【教材の使い方】

・情報をまとめ、見ながら発表する。

【工夫した点】

・予報に必要な手順を明確に示し、やることがすぐわかるようにした。

【社会】

23区を調べてみよう

■教材名

23区の調べ学習用紙

く おぼ
23区を覚えて
ますか？



《社会》 調べてみよう

なまえ

- 1、行きたい区は何区ですか？
- 2、その区のゆるぎやらのなまえは？
- 3、行きたい場所はどこ？
- 4、どこにあるの？ 近くの駅はどこ？
- 5、何をするとところ？
- 6、何があるの？ (そこにあるものか、そこにいるもの3つ)
(1) (2) (3)
- 7、お土産を買うとしたら何をかうの？
- 8、お屋はどこで食べる (お店の名前)？
- 9、お屋は何を食べる？

■対象生徒の実態とねらい

【実態】

- ・高2 社会、6 グループの生徒対象

【ねらい】

- ・暮らしている江戸川区のことについて学習した後に、その他の区に興味関心をもつことができる。
- ・23区に興味関心をもった後に、関東地方、日本、世界へと関心の幅を広げていくことができる。
- ・自分たちで調べることにより、そこへの行き方、場所、名産などを知ることと、調べることが新たな発見につながることを体験することができる。

【教材の使い方】

- ・調べる内容を具体的にすることで調べやすくしている。また、事前学習で江戸川区のことを学習しているので、どのようなことを調べればよいのかを理解した上での調べ学習となっている。

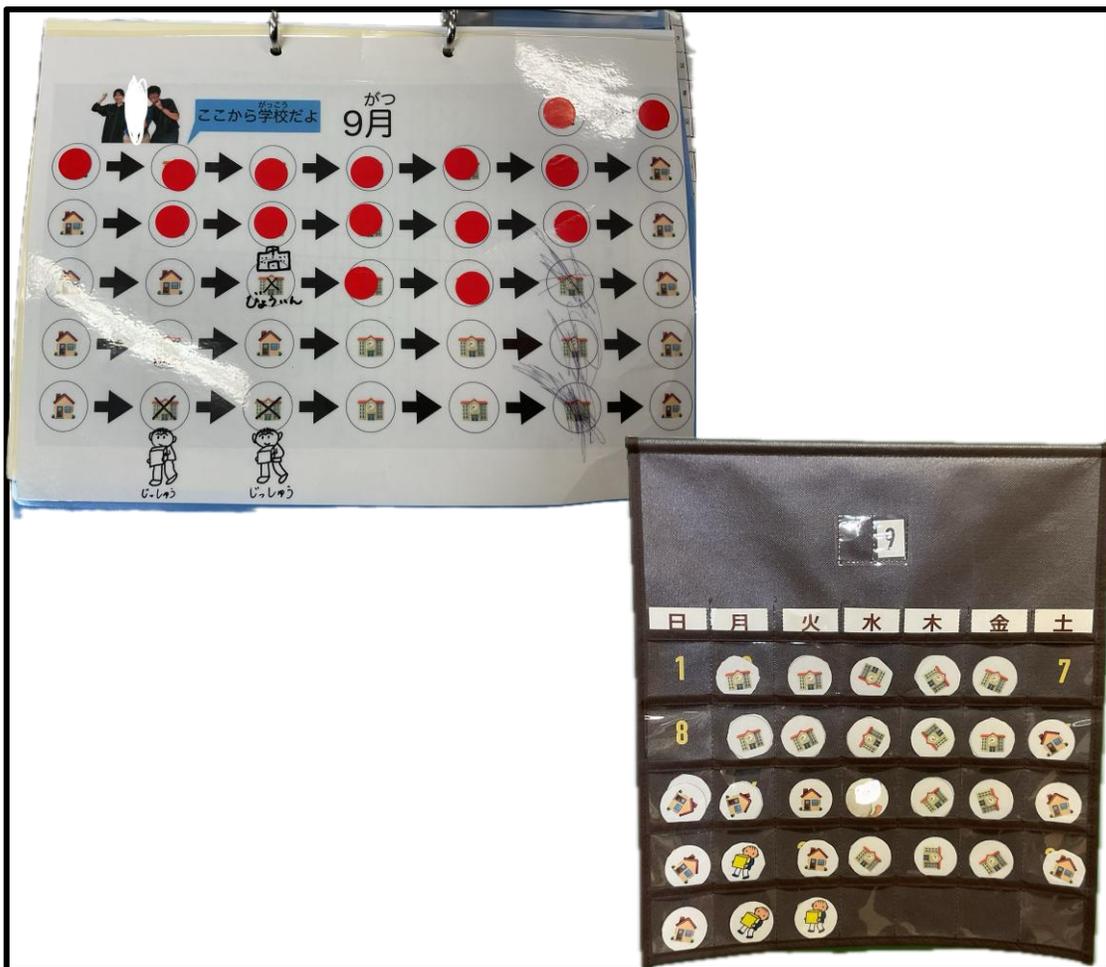
【工夫した点】

- ・自分たちの興味関心のある場所や食べ物など、意欲的に調べられることと、自分たちの興味関心のあることを調べ学習の発表で話すことにより、その場所のこと、更に自分の興味をクラスの仲間にも知ってもらえることができる。

【学級】 日常生活の指導

■教材名

予定確認カレンダー



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

・高3男子 言葉でのコミュニケーションに困難を抱えている生徒

【ねらい】

- ・イラストや写真を見て、自分自身で予定の確認することができる。
- ・長期休業や祝日などの不規則な休みの後でも見通しをもって活動に取り組むことができる。

【教材の使い方】

- ・毎朝、連絡帳を書いた後に教員と一緒に確認しながらシールを貼り、カレンダーの顔写真を移す。
- ・不規則な休みの前に一緒に予定を確認する。

【工夫した点】

- ・対象生徒が理解できるイラストやマークを使うことで学校だけでなく、自宅でも活用できるようにした。